

市民共同出資の 太陽光発電所



太陽光発電所となる東大阪市のポッポ第2保育園の完成イメージ写真

東大阪のポッポ第2保育園

子どもに優しい環境を

異常気象や海面上昇など地球温暖化の原因となっている二酸化炭素(CO2)を排出する石油・石炭などの化石燃料依存から脱却し、太陽光や風力、小水力、バイオマ

スなどの自然エネルギーを利用しようという運動が盛んになる中、大阪でも初の市民共同出資による太陽光発電所が近く東大阪市内の保育園で誕生します。

特定非営利活動法人自然エネルギー市民共同発電(和田武代表理事・立命館大教授)が社会福祉法人鴻池ポッポ福祉会、自然エネルギー市民の会の協力を得て推進しているもの。

年間1万キロワット

計画によると、東大阪市鴻池町1丁目にある、ポッポ第2保育園(岡喬子園長、園児70人)の屋根に10キロワットの太陽光発電パネルを設置。年間で1万キロワット時を発電し、同保育園の消費電力の約3割を賄います。これによって年間6・9トンのCO2削減効果を見込んでいます。

設置費用は約1千万円。うち半分はNEDO(独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)の「平成17年度太陽光発電新技術等フィールドテスト事業」と大阪府が地球温暖化防止事業として17年度から実施した「府民共同発電所推進事業」からの補助金を充て、残り半分を一般市民からの寄付と出資金で賄います。

関西で初めて

「市民共同発電」は全国に70カ所以上あると言われる。今年度から国の補助金が大規模の太陽光発電設備(10キロワット以上)に限定され

ため、寄付だけで資金調達が困難になり、出資金と併せて集められることになりました。

1口10万円の出資金は発電収入で払い戻されます。また、太陽光で発電した電力の環境価値をグリーン電力証書として、環境保全やCSR(企業の社会的責任)に取り組む企業・団体に販売することも目指しており、実現すれば、10キロワットの市民共同発電所の取り組みとしては、関西で初めてとなります。

発電設備が設置される同保育園は、JR学研都市線鴻池新田駅から東へ徒歩約15分。昨年4月に開園したばかりです。太陽光発電パネルは日当たりの良い南側の屋根に取り付けられる予定です。今月中旬に着工、2月中旬には点灯式を予定しています。

園長は「子どもたちが健康で安心して過ごせる環

境を残すために役立てたい。発電の様子はモニターで確認でき、照っていたらこんなに電気ができるのかと分かるので、省エネや環境保全を進める上で啓蒙になるかなと思います。この発電所が市民の話題になるよう知らせていきたい」と言います。

温暖化を防止

市民共同発電の和田代表理事は「地球温暖化が急速に進行し、世界各地で異常気象による被害が頻発しています。地球の気温が過去百年間で0・7度上がったのですが、対策を怠ると21世紀にはその何倍もの気温上昇が起ると予測されており、子どもたちの未来が危ぶまれています。それを防ぐにはCO2を大幅に削減する必要があります。そのためには省エネを推進するとともに、太陽光発電のような自然エネルギーを増やし、行く必要があります」と協力を呼び掛けています。自然エネルギー市民共同発電の連絡先は06・6910・6301、06・6301、ファックス06・6910・6302。